

平成30年度第1回 独立行政法人農業者年金基金資金運用委員会 議事概要

1. 開催日時

平成30年6月19日（火）13:00～14:40

2. 開催場所

独立行政法人農業者年金基金 特別会議室

3. 出席委員

・明田雅昭 委員長 ・菅原晴樹 委員 ・徳島勝幸 委員 ・枇杷高志 委員

4. 議事

- ・委員長の選任について
- ・平成29年度運用結果及び運用評価について
- ・政策アセットミックスの検証について
- ・国内債券のバーベル戦略について

5. 概要

資金運用委員会運営規程に基づき、委員互選の結果、明田委員が委員長に選出された。

平成29年度の運用結果及びその評価について事務局から説明し、報告のとおり了承された。

被保険者ポートフォリオの政策アセットミックスについて、直近の経済動向に基づき検証を行ったところ、検証の前提となる各種金融変数の考え方や計算手法について質疑があったが、現行アセットミックス設定時の制約条件の下では、引き続き効率性が維持されていると認められることから、緊急に見直す必要はないとされた。

20年国債と修正デュレーション調整用のキャッシュによる国内債券のバーベル型運用について、現状では、急激な金利上昇が生じる可能性は低いと考えられることから、当面は、修正デュレーションの基準値を8年とする方針を事務局から報告し、異論は示されなかった。

なお、今回の議事についての委員からの主な意見等は以下のとおり。

<主な意見等>

- 平成29年度の運用結果をホームページで公表する際に、被保険者ポートフォリオにおいては、リバランスの注釈の箇所で政策アセットミックスの資産構成割合や乖離許容幅を追記するなどして、より分かりやすくする工夫をしてはどうか。
- 政策アセットミックスの検証について、外国株式の比率からは、やや為替リスクが大きいようにも見えるので、その点はリスク管理上、注意していくべき。
- 国内債券のバーベル型運用については、
 - ・ ベンチマークである野村BPI総合の修正デュレーションは、将来的な見通しが推計できるので、今後はその試算も行うことで、状況の変化に即して修正デュレーションの基準値の見直しをできるようにしてはどうか。
 - ・ 金利が急激に上昇した場合のストレステストだけでなく、イールドカーブがフラット化した場合についても分析しておくべきではないか。

以上